

平成 9 年 1 月 20 日	植 防 情 報	発表	栃木県病害虫防除所
--------------------	----------------	----	-----------

昨年(平成 8 年)の 1 1 月から 1 2 月に、県内のいちご栽培ほ場で、オオタバコガの発生が本県で初めて確認されました。本種は、トマト・なす・いちご・花き類などに大きな被害を与えるおそれがあります。

病害虫発生予察特殊報第 1 号

病害虫名：オオタバコガ (*Helicoverpa armigera* (Hübner))

1 発生の確認までの経過

本種(オオタバコガ)のわが国での分布域は、本土南西部、対馬、屋久島、琉球列島である。近年、西日本を中心に本種によるナス科植物等の被害が問題化している。最近、東日本での被害も報告されてきており、埼玉県では昨年 8 月に初めて幼虫の発生が確認された。

本県ではこれまで、山野での採集記録やフェロモントラップによる確認はあったが、ほ場での被害発生は未確認であった。しかし、昨年 1 1 月に壬生町で、また同 1 2 月に西方町のいちご栽培ほ場で本種と思われる鱗翅目幼虫の発生が確認された。当所でそれらの幼虫を飼育し、羽化した成虫を農林水産省草地試験場環境部の吉松慎一博士に同定を依頼したところ、本種であることが確認された。

2 オオタバコガの特徴と生態

(1) 形態

卵は長さ 0.4mm 程度、淡黄色。幼虫は、まばらに生えた毛が目立ち、淡緑色から濃褐色、終齢幼虫の体長は 35mm 程度で、気門の下方の毛の基部が黒点に見える(写真 1)。成虫は、体長 15mm 程度、開長 35mm 程度、前翅は灰黄色から黄褐色である。

タバコガに類似するが、本種は、前翅亜外縁線が鋸歯状にはならないこと、後翅がより白っぽく翅脈が黒褐色になる(写真 2)こと等により識別できる。幼虫で両種を識別することは困難である。

(2) 生態

産卵から羽化までの期間は、20℃ で 63 日程度、25℃ で 36 日程度で、夏期には 1 世代を約 1 か月要する。1 年に 2 ~ 3 世代を繰り返すと思われる。ハスモンヨトウと同様、高温性の害虫であり、越冬は、野外では困難であるが施設内では蛹や老熟幼虫により可能であると思われる。

(3) 寄主植物

寄主植物の範囲は、トマト等のナス科植物、きゅうり、えんどう、いちご、キャベツ、レタス、スイートコーン、きく、トルコギキョウ等をはじめ、きわめて広い。

3 被害

幼虫が加害する。いちご、トマト、なす等では主に果実が食害される。えんどう等まめ類では莢が食害される。キャベツ・レタスでは結球内が食害される。スイートコーンでは主に若い穂が食害される。きくでは主に頂芽に被害を受ける。なお、トマト、なすでは、茎に侵入した幼虫による茎折れで、大きな被害を受けることがある。

4 防除対策

(1) 耕種的防除

ア 被害痕や虫糞を発見したら、周囲を探し、捕殺する。少ない虫数でも被害が大きいのので捕殺の効果が高い。

イ ハウスの開口部を目合 5mm 以下の寒冷紗で覆い、侵入を防止する。

(2) 薬剤防除

現在、本種に登録されている薬剤はないので、他害虫との同時防除を行う。ただし、中齢幼虫以降では防除効果が期待できないので若齢期に防除する。

* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *

詳しくは、病害虫防除所にお問い合わせください。

TEL 0 2 8 - 6 6 5 - 5 6 4 5

FAX 0 2 8 - 6 6 5 - 6 0 6 3



写真1 いちごの葉に寄生するオオタバコガの終齢幼虫



写真2 オオタバコガの成虫